

平成30年度 第一回金沢美術工芸大学大学院特別講義

「風景のなかで考える——芸術人類学の旅」

講師 **港 千尋** (写真家・映像人類学者／多摩美術大学情報デザイン学科教授)



「風景論」(中央公論新社 2018)より

金沢美術工芸大学 第1教室

※学外の方も聴講できます。

問い合わせは芝山(彫刻専攻)まで

12月6日(木) 18:00~19:45

平成30年度 特別講義の第一弾! (次回12月14日)
今、アートと人類学に何が起きているのか?

港千尋(みなと・ちひろ)先生。プロフィール:1960年神奈川県生まれ。写真家、映像人類学者。多摩美術大学情報デザイン学科教授。同大学芸術人類学研究所員。1980年代より写真家として活動するとともに、混迷の時代をすどく射抜く独自の批評活動を展開。芸術の発生、記憶と予兆、イメージと政治などをテーマに、アートと人類学が交差する地点からラディカルな知と創造のスタイルを提示している。2006年〈市民の色〉で伊奈信男賞受賞。2007年ベネチア・ビエンナーレ日本館コミッションナー、2016年あいちトリエンナーレ芸術監督などを歴任。著書多数。写真集に『掌の縄文』(羽鳥書店)、最新刊に『風景論―変貌する地球と日本の記憶』(中央公論新社)がある。